

産地生産基盤パワーアップ事業評価書

(収益性向上対策)

都道府県名	事業実施 地区数 (ア)	評価対象 外地区数 (イ)	評価対象 地区数 (ア-イ)	成果目標の平均達成率 ※	評価対象地区数のうち、 都道府県が地域協議会 へ改善指導を必要とし た地区数	地方農政局 等から都道府県計画の 改善指導の必要の有無	【参考】 評価対象地区数のうち、 達成率80未満の地区数	都道府県による総合所見	地方農政局等による総合所見
福岡県	16	9	7	59.5%	4	有	3	令和5年度の評価対象の地区である7地区のうち、目標の未達成は4地区である。 未達成となった地区①はナス、アスパラガス、トマトに係る生産技術高度化施設、集出荷貯蔵施設を整備し、産地の拡大を図った。品質向上により販売単価は上昇したが、作付面積や収量の減少により、販売額が伸び悩んだ。地区②は柑橘に係る集出荷貯蔵施設の整備により、収益力の高い産地育成を図った。販売単価は上昇したものの、天候の影響で出荷量が大きく減少し、価格補正の結果、目標を達成できなかった。地区③は菊に係る生産技術高度化施設を整備し、収益力の高い産地育成を図った。しかし、工期の遅れにより計画していた年3回転が達成できず、出荷量が減少し、販売額が伸び悩んだ。地区④は軟弱野菜に係る生産技術高度化施設、集出荷貯蔵施設及び生産資材を導入し、収益力の高い産地育成を図った。しかし、肥料高騰や大雨被害といった外的要因により、出荷量が減少し、販売額が伸び悩んだ。 上記の課題については、肥料高騰及び自然災害という外的要因に備え、生産面では適正な肥培管理や栽培計画の策定、天候に左右されない高い技術確立が求められる。また、販売面では、コロナ禍からの需要回復の機を捉え、産地を挙げた販売対策が求められる。 関係機関と連携して、引き続き支援を行っていく。	福岡県の成果目標平均達成率は、国が達成と判断する90%に対し59.5%であり、目標は達成されていない。 このため、農政局から県に対し、成果目標の達成に向けた要因分析及び改善措置の提出を求めるとともに、未達成の地域協議会及び取組主体に対しては、県担当者から指導を行うなど、県による主体的な取組を指導する。 なお、福岡県が改善措置を必要とした地区(達成率90%未満)の概要は、以下のとおり。 〈参考:成果目標未達成地区の概要〉 【野菜】2地区 評価対象の5地区のうち、目標未達成地区が2地区となっている。「販売額増加の目標」が未達となった2地区の主な要因は、1地区(ナス、アスパラガス、トマト)は作付面積や収量の減少により販売額が伸びなかったこと、1地区(軟弱野菜)は7月豪雨災害による作付面積が減少となったことにより未達成となった。 【果樹】1地区 評価対象の1地区について、夏季以降の少雨や集中的な大雨等の天候の影響により柑橘の収量が大きく減少したことから、「販売額増加の目標」が未達成となった。 【花き】1地区 評価対象の1地区について、本事業で整備した生産技術高度化施設の工事完了が遅れ、キクの栽培の回転数が減少したことにより出荷量が確保できなかったことから、「販売額増加の目標」が未達成となった。

※小数点第1位まで記載する